

「ハロン分解処理システム」をINCHEM TOKYO 2001に出展

ハロンは、消火能力が高いことから電気室等の水が使えない個所の消火ガスとして用いられていますが、オゾン層の破壊や地球を温暖化する物質のため1994年に世界的に製造を禁止されました。当社も、消火用設備などでハロンを100t規模で保有しており、設備更新時に代替ガス消火設備に切り替える予定です。このため、エネルギー応用研究所でハロン分解処理システムの開発を進めていました。このたび、その成果を11月27日(火)から11月30日(金)までの間、東京有明のビッグサイトで開催された、「INCHEM TOKYO 2001」に出展しました。

この展示会は、アジア最大の化学・プラント産業関連展示会で今年23回目を迎え、4日間で84,500人が訪れました。このような大きな展示会に出展するのは当社として初めてです。

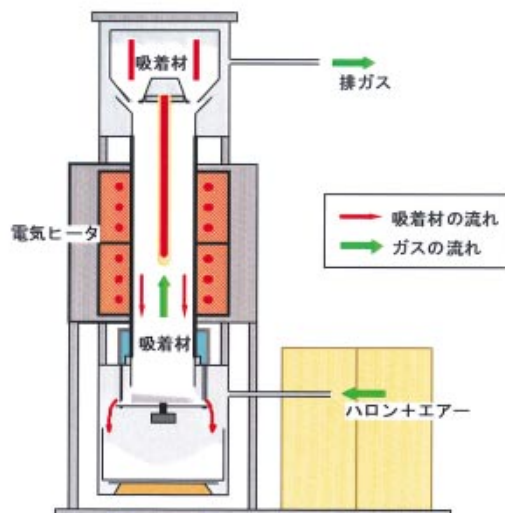
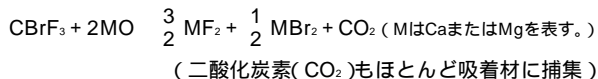
本システムは、当社と上田石灰製造株式会社が共同で開発したもので、電気加熱により高温でハロンを分解し、分解ガスを発生と同時に吸着材に捕集する乾式のシステムです。湿式の排ガス中和処理が不要でシステムがコンパクト、取り扱いが容易なことがセールスポイントです。

当社のブースには多くの来場者が訪れ、オゾン層破壊物質や地球温暖化物質処理への関心の高まりを痛感することとなりました。お客さまからは、ハロン分解処理の商業化時期や装置価格、また、フロンや六フッ化イオウ等のハロン以外のハロゲン化合物処理への展開を期待した質問を数多く受けました。

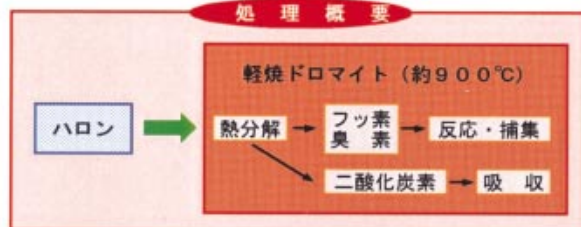
今回の展示を通じ、業界の反響の大きさを受けて、早急な実用化を目指したいと考えています。

処理方法

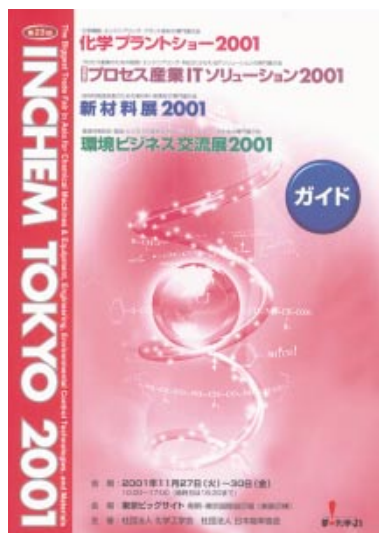
吸着材を装置上部から連続的に電気炉に投入
ヒータで約900℃に加熱
装置下部からハロン1301(CBrF₃)を導入
ハロンと吸着材が、下式のように反応



処理概要



▲ハロン分解処理の概要



◀商品説明の様子

